

● ● ● ● 道徳授業地区公開講座を充実させましょう ● ● ● ●

教育庁指導部 主任指導主事 山村 智治

道徳授業地区公開講座は、「意見交換を通して、家庭・学校・地域社会が一体となった道徳教育を推進すること」、「道徳の授業の質を高め、道徳の時間の活性化を図ること」、「道徳の授業を公開することにより、開かれた学校教育を推進すること」を目的とし、平成10年度から29校で試行的に始められました。平成14年度には都内全公立小中学校にて実施することとなり、平成24年度以降は都内公立小中学校、特別支援学校等の全ての学級で実施され、参観される方も年々増えています。

また、平成20年の学習指導要領の改訂では、道徳の章の「指導計画の作成と内容の取扱い」に、家庭や地域社会との共通理解を深め相互の連携を図るための方法として、「道徳の時間の授業を公開し」と道徳授業を公開することが挙げられ、都の「道徳授業地区公開講座」の意義が強調される形となりました。

私も何度か道徳授業地区公開講座の意見交換会の講師として招かれました。ある学校では、校長先生の熱心な声掛けもあってか、意見交換会には、保護者や教員だけでなく、多くの地域の方も参加されました。その会で、無料通話アプリ（LINE等）で起こりやすいトラブルを例とし、「思いやり」についての話を始めて間もなく、参加者の反応から、そのアプリを知らない方が少なくないことに気がきました。そこで、「御存じの方は使ったことのない方に説明していただけますか」と呼びかけたところ、自身のスマートフォンを取り出し、周りの方に画面を見せながら熱心に説明してくださる方が何人もいました。立場や世代を越えての交流です。その後の課題解決のための話し合いは盛り上がり、一体感のある温かな意見交換会となりました。

道徳教育は、道徳の授業を要としながら学校教育全体で行われていることを、教員は知っています。自校の道徳教育の重点的なテーマや課題もそうです。しかし、保護者や地域の方々はどうでしょうか。道徳の授業すら知らない方もいるかもしれません。学校と関わる人々の理解なくして、道徳教育の充実は難しいと考えます。

是非とも、各学校の道徳教育が目指すところを家庭・地域社会と共有・連携しつつ実現させるための手段の一つとして、道徳授業地区公開講座・意見交換会を有効に活用していただきたいと思います。

掲載内容

- 「道徳授業地区公開講座」を活性化しましょう。
- 「特別の教科 道徳」授業力向上セミナーを開催しました。
- 東京ジュニア科学塾（全3回）を紹介します！

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか。

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にしてください。なお、本通信のバックナンバーも、「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このリンク用バナーがあります！



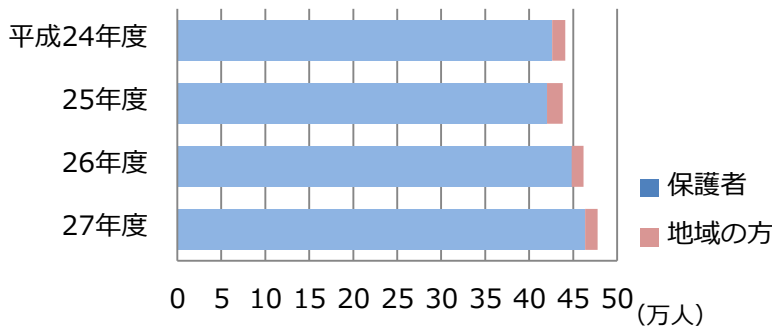
★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jpへメールを御送信ください。

「道徳授業地区公開講座」を活性化しましょう。

東京都では、家庭・学校・地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育てる道徳教育を推進するため、平成14年度から道徳授業地区公開講座を実施しています。

平成27年度は、都内全ての区市町村立小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校1,908校と、都立の中学校及び中等教育学校10校で実施され、全学級が授業を公開しました。さらに、区立特別支援学校3校と都立特別支援学校23校でも実施され、計1,944校が実施しました。また、保護者・地域の方など、合わせて47万人以上の方が道徳の授業を参観しました。

道徳授業地区公開講座 授業参観者数の推移



年度	授業参観者数 (総数)	(総数の内) 地域の方	意見交換会参加者数 ()内は総数中の割合
24	440,870	14,737	90,188 (20.5%)
25	438,136	17,816	102,646 (23.4%)
26	461,905	13,739	109,601 (23.7%)
27	477,675	14,190	115,517 (24.2%)

※ 意見交換会への参加者数は年々増加していますが、授業参観者数の4分の1未満にとどまっています。

意見交換会の充実に向けて

家庭・学校・地域社会が一体となった道徳教育を推進するためには、三者の協力体制をしっかりと整えることが不可欠です。道徳授業地区公開講座は、その基礎固めの場です。授業を参観していただくだけでなく、意見交換会にも多くの方に参加していただき、活発な交流を図ることが大切です。

周知や準備の工夫をしています！

- 保護者会の全体会で、講座のねらいや意義について校長から保護者に説明し、参加を呼び掛けている。
- 地域の掲示板などに講座開催のお知らせを掲示し、地域の方の参加を促している。
- 講演会を行う際、講師との打合せを数回行い、学校としてのねらいや保護者のニーズに応えた内容となるようお願いしている。

意見交換会のテーマを工夫しています！

- 事前に保護者にアンケートをお願いし、子供たちの心の成長で気になっていることを挙げていただき、それをもとにテーマを決めている。
- 「思いやりのある子」、「きまりを守る子」などのテーマに沿って、「大人は何をすべきか」を話し合うようにしている。
- 公開授業を全学級同じ内容項目にし、それをテーマとして意見交換会を行っている。

意見交換会の充実に向けて工夫をしている学校の取組を御紹介します。



多くの人に参加してもらおう工夫をしています！

- 学校公開日と同日開催にし、他の教科等の授業と併せて参観していただいている。
- 3校時に道徳の授業を公開し、4校時は授業公開を設定せずに、意見交換会に参加しやすいようにしている。
- 体育館で子供と保護者・地域の方・教員全員で講演を聞いた後、大人だけ体育館に残って意見交換会を行っている。

考えてみましょう！

- 学校にできること、学校がすべきこと
- 保護者がすべきこと、保護者にしかできないこと
- 地域の大人だからできること

保護者の中には、「人前で発言を求められるから……」、「授業の感想を聞かれても……」といった理由から参加しにくいと感じている方も多いようです。文字どおり、みんなが「意見」を「交換」しながら子供たちについて一緒に考える場として、意見交換会を充実させていきましょう。

「特別の教科 道徳」授業力向上セミナーを開催しました。

「特別の教科 道徳」の優れた授業実践を紹介し、指導内容や指導方法の工夫について、多くの先生方に理解していただくため、今年度、「『特別の教科 道徳』授業力向上セミナー」を開催しました。

このセミナーでは、「『特別の教科 道徳』移行措置対応 東京都道徳教育教材集」の作成に御協力いただいた、東京都道徳教育推進委員の先生方に、教材集を活用した授業を公開していただくとともに、参加された先生方による協議会を実施しました。協議会では、公開授業を振り返りながら、指導方法の工夫や自校の課題、今後の取組などについて、活発な意見交換が行われました。



〈 公開授業の様子 〉



〈 協議会の様子 〉

【実施報告】

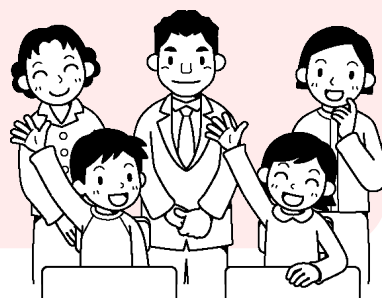
- 9月29日 (木) 世田谷区立池之上小学校
- 10月18日 (火) 目黒区立大鳥中学校
- 10月21日 (金) 東大和市立第八小学校
世田谷区立千歳中学校
- 10月25日 (火) 世田谷区立東深沢小学校
- 10月28日 (金) 渋谷区立神南小学校
- 11月10日 (木) 多摩市立多摩中学校
- 11月14日 (月) 新宿区立四谷中学校
- 11月16日 (水) 板橋区立板橋第四小学校
- 11月17日 (木) 多摩市立青陵中学校
- 12月2日 (金) 練馬区立光和小学校
江東区立深川第三中学校
- 12月9日 (金) 中野区立鷺宮小学校

★小学校7回、中学校6回、計13回実施 延べ参加人数545名

多くの先生方に御参加いただきました。
ありがとうございました。

【参加された先生方の声】

- 子供たち同士が互いに深め合い、共有し合える道徳の授業で、とても勉強になりました。また、協議会では、学校での実践に役立つ内容を学ぶことができました。指導方法の工夫や「特別の教科 道徳」の内容など、自校の先生方と共有し、すぐに取り入れていきたいと思えます。
- 授業での先生の声のかけ方や子供の発言の受け止め方など、自分の授業を振り返る貴重な機会になりました。協議会では、自分では気が付かなかった視点から様々な意見を聞くことができ、とても参考になりました。今日の成果を学校に持ち帰り、生徒の実態に合わせて取り入れていけるように努めます。
- 道徳の教科化が心配でしたが、方向性がよく分かり安心できました。道徳の授業をよりよいものにしたいと強く思いました。工夫をして授業をするのが楽しみになりました。



Q&A

協議会で話題に上った内容を御紹介します。

特に道徳主任の先生から多かった質問

Q. 学年や学校全体で道徳の授業の工夫を共有するには、どうすればいいのでしょうか？

A. 授業前の打合せだけでなく、授業後に子供たちの反応や発言の内容、授業の成果などについて振り返りを行うことが効果的です。今日の授業の工夫がどのような成果を挙げたのか、どこに課題があったのか、それらを先生方の中で共有し、次の授業につなげていくことが大切です。授業後に10分間でも振り返りの時間を取るようにしてみましょう。また、校務パソコンに道徳の共有フォルダを作成したり、職員室内に「道徳棚」を設けたりして、教材や資料などをいつでも誰でも使えるようにすることも効果的です。

特に小学校の先生から多かった質問

Q. 道徳の授業の中で必ず「議論」をさせなければいけないのですか？

A. 「議論」（話し合い）は、一つの事柄について様々な見方や考え方があることに気づき、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができる効果的な活動です。しかし、ねらいや内容によっては、グループの中では意見を言いにくかったり、自分自身をじっくり見つめさせるほうが効果的だったりする場合があります。「議論」（話し合い）は、あくまでも授業のねらいを達成するための「手段の一つ」と捉え、議論をさせることが授業の目的にならないようにすることが大切です。

特に中学校の先生から多かった質問

Q. 他の先生の道徳の授業を参観したいのですが、どうすればいいのでしょうか？

A. 副担任の先生も含めて学年間や全校で、先生方が学級をローテーションをして授業をするという工夫をしている学校もあります。授業を行わない時間ができることで他の先生の授業を参観できたり、同じねらいについての授業を複数回行うことで工夫・改善ができたりするという長所があります。また、学期に一回程度、学年や学級で時間割を調整して道徳の時間をずらし、互いの授業を参観し合っているという学校もあります。

セミナー全体を通して多かった質問

Q. 「特別の教科 道徳」の評価は、どのように記述するのですか？

A. 「特別の教科 道徳」の評価は、子供たちがどのように成長したかを記述します。「ものの見方が広がった」、「考えを深めることができた」、「理解が深まった」といった子供たちの変容を適切に捉えられるよう、ワークシートの内容や活動の観察の仕方を工夫することが大切です。「評価をどのように書くか」の前に、「評価を何をもとに書くか」を検討し、評価材料の収集を行いましょう。

特に道徳主任の先生から多かった質問

Q. 道徳の教科化に向けて、特に重要なことは何ですか？

A. 道徳教育は学校の教育活動全体を通して行うものです。したがって、道徳の教科化に向けた準備も、全校体制で取り組む必要があります。まずは、これまでの道徳の時間の授業を見つめ直し、工夫・改善できる点がないかどうかを検討し、「やってみる」ことが大切です。その上で、全ての先生方で成果と課題を共有し、「次」につなげていきましょう。道徳の教科化によって、これまでと全く異なる授業をしなければならなくなるということではありません。子供たちの豊かな心を育むために、どのように授業を工夫すればよいのか、それを全ての先生方で一緒に考えていきましょう。

公開授業で活用した『特別の教科 道徳』移行措置対応 東京都道徳教育教材集』の全ての教材は、東京都教育委員会ホームページ内の「学び応援ページ」に掲載しています。

また、各学校には、教材と指導例、場面絵の画像等のデータを収録したDVDを配布しています。

ここをクリック!!



東京ジュニア科学塾（全3回）を紹介します！

10月発行の「Scrum」でお伝えしたとおり、東京都教育委員会では、未来の科学技術を担う人材を輩出することを目的として、都内の公立中学校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程を含む。）の第1・2学年の生徒を対象として、「東京ジュニア科学塾」を実施しています。

最先端の科学に関する専門家から直接、講義を受けることができる講座で、年間3回実施しています。今回は、実施した全3回分の講座の様子を御紹介します。

第1回 10月2日（日） ～ 東京理科大学 川村康文教授による講演 ～

「地球環境問題解決を考えるための実験」というテーマで御講演いただきました。

私たちの地球を守っていくため、環境に優しいエネルギーを生み出す発電などの実験を通して、私たちができる活動について考えました。

参加した生徒からは、「地球の環境問題は多様であるが、科学的な手法によって、多くのものが解決できることが分かってよかった。」などの感想がありました。



第2回 12月11日（日） ～ 国立科学博物館 窪寺恒己博士による講演 ～



「海の生き物たちの不思議 —マッコウクジラとダイオウイカ—」というテーマで御講演いただきました。

ダイオウイカを探すためには、マッコウクジラを追うことや、世界で初めてダイオウイカの映像を撮るまでの苦労や研究成果等の話に、参加した中学生は、熱心に聞き入っていました。

「海の中には、まだ多くの謎があることに驚いたが、科学技術の発展によって、解明されることが多くあることを知って、ますます楽しみになった。」などの感想がありました。

第3回 2月19日（日） ～ 京都大学 佐々木貴教助教による講演 ～

「地球以外にも生命を宿す惑星は存在するのか？」というテーマで御講演いただきました。

太陽系外の惑星をどのように見付けるのか、何を調べると生命を宿す惑星の存在が分かるのか、具体的なデータや写真を基に、未知の世界に挑む、興味深いお話でした。

また、フェルミのパラドックスという、難題も紹介いただき、参加した生徒は、「生命が存在するという定義は何か？」など、佐々木先生に深い質問を投げ掛けていました。



参加者のアンケートには、「私も興味のあることを解明する科学者になりたい。」など、科学に対して関心を広げ、将来の職業としても大きな夢や希望を抱く、多くの感想がありました。

東京ジュニア科学塾は、平成29年度も実施する予定です。詳細については、平成29年5月中旬に、各学校から配布される通知や東京都教育委員会のホームページを御覧ください。